

平成27年度
トウール市派遣青少年親善研修生
報告書

平成27年9月5日(土)～9月19日(土) 15日間



Takamatsu International Association
公益財団法人 高松市国際交流協会

目 次

1. 日程	1
2. フォトギャラリー	3
3. 親善研修生 報告書 I	
香川大学 教育学部3年 大坂 ふみ	
日誌・活動記録	5
感想文「ツールで素敵な出会い」	18
4. 親善研修生 報告書 II	
香川高等専門学校 建設環境学科4年 小田 菜月	
日誌・活動記録	19
感想文「日本・高松の文化を伝えて」	30

平成 27 年度 トゥール市派遣 青少年親善研修生日程

日 時	時 間	内 容
9月5日(土)	18:00	JL484 高松空港出発
	19:15	羽田空港到着
	22:55	AF 羽田空港出発
9月6日(日)	4:30	シャルル・ド・ゴール空港到着
	8:19	シャルル・ド・ゴール駅出発
	10:04	サン・ピエール・デコール駅到着、お迎え
9月7日(月)	11:00	トゥール市役所
	13:00	トゥール美術館
	16:00	トゥーレーヌ語学学校
9月8日(火)	10:00	ブロワ技術短期大学見学
	13:00	ブロワ城
	16:00	ブロワ技術短期大学の学生達と交流
9月9日(水)	11:00	職人徒弟制度博物館
	13:00	サン・シール・シュール・ロワール市での交流
9月10日(木)	11:00	マルムティエ高校日本語授業
	13:00	トゥール市街地散策
	16:00	日の出協会との交流
9月11日(金)	10:00	ラ・ベロ・ド・ロワール サイクリング
	13:00	ヴィランドリー城見学
9月12日(土)	15:30	日の出協会のイベント参加
9月13日(日)		ホストファミリーと週末を過ごす
9月14日(月)	11:00	サント・ラドゴンド公園
	14:00	コンセルバトワールでの演奏
	16:00	トゥール市庁舎でのレセプション
9月15日(火)	11:00	トゥール市オペラ座見学
	15:00	ディドロ小学校授業
9月16日(水)	10:14	サン・ピエール・デ・コール駅出発
	11:13	モンパルナス駅到着
9月17日(木)		パリ2泊
9月18日(金)	7:15	ホテルより空港へ移動
	11:05	AF272 シャールル・ド・ゴール空港出発
9月19日(土)	6:00	羽田空港到着
	9:55	JL477 羽田空港出発
	11:15	高松空港到着

Les photographies de souvenirs

Le 5 Septembre~le 19 Septembre 2015
en Tours

マルムティエ校にてお点前



職人徒弟制度博物館の方と一緒に



プロワ技術短期大学の学生さんと



トゥール市の古い街並み



日仏協会のクレオラ美紀さんと



トゥール市中心部
プリムロー広場のカフェ



プロワ城にて
王様の椅子に
座ってしまった!



ヴァランドリー城への
サイクリングの途中で
知り合ったイヴさんと



サイクリングの途中で



ヴァランドリー城の庭園





イザベルさんと娘のフローホンスさん



スネ家ホストスター達と一緒に



トゥール市オペラ座にて



大好きなスネ一家



素敵なトネーさん一家



初、エスカルゴ

音楽に国境はない!
コンセルバトワール音楽学校にて



忘れられないエッフェル塔



とても素敵なパリの夜景

親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

香川大学 教育学部 3年 大坂ふみ

9月5日(土)

午後4時ごろに空港に到着した。小田さん、高松市国際交流協会の方々と合流すると、簡単に出発式をした。7月から今まで研修を重ね、準備してきたものの、当日になるとなかなか実感がわかなかった。「体調・スリなどに気をつけて、楽しんできて」と声をかけて頂いた後、小田さんと飛行機へと乗り込んだ。小田さんとは、「お土産何買った?」「最後に羽田空港で美味しいご飯を食べよう」などと話していた。羽田空港到着後、国際線ターミナルのエールフランスのカウンターに並ぶと、周りの人がフランス語を話すのを聞いたり、たくさんのフランス語の表示を見かけたりした。が、フランス語で何を言っているのかさっぱり分からない。こんなのは序の口で、現地に行けばもっとフランス語に触れることになる。機内に乗り込んだ後は、「フランスで、うまくやっていけるかな」「明日ちゃんとトゥールまでたどり着けるかな」と考えていた。

9月6日(日)

機内で目が覚め、機内食をとった。フランスらしいクロワッサンやクレープの朝食で、お腹を満たした。着陸前、夜間の飛行のため閉めていた日除けを開けると、フランスの街の夜明け前の明かりが見えた。とてもきれいで、やっとフランスに来ているんだと実感が湧いてきた。シャルル・ド・ゴール空港に到着すると、未明の4時。8時19分空港駅出発のTGV(フランスの新幹線)に乗るため、4時間程待たなければならない。小田さんとカフェで一休みして、自己紹介用の名刺や折り紙を作り、TGVを待った。カフェから外を眺めていると、私達と同じようにTGVを待っている人や、フランスの軍隊らしき人が歩いているのが見えた。彼らを見たときは、「何か事件があったのか」とひやりとしたが、どうやらそうではないようだ。空港は人が多く集まる場所なので、テロ対策の為の見回りをしているらしい。日本では見慣れていない光景だったが、ここは日本ではなく外国なのだと感じた。

どのTGVに乗ればいいのか迷いながらも、何とかサン・ピエール・デ・コール駅行きのTGVに乗車することができた。しばらく経つと、フランスののどかな景色が見えてきた。TGVに乗って少し安心し、小田さんと私はいつの間にか眠ってしまっていた。しばらくすると、「Excuse me.」と切符の確認に来た車掌さんに声をかけられ、目が覚めた。寝過ぎたかと思ってびっくりしたが、目的駅までまだ時間があった。少し安心すると同時に、ホストファミリーにようやく会えると思うと、期待と緊張でどきどきしていた。

サン・ピエール・デ・コール駅に到着し、周りを見渡していると、ホストファミリーらしい集団が見えた。トゥール市役所のマリ・ベルナードさん、スネさん、トネーさんが私達を歓迎してくれた。手には「Welcome Natsuki Fumi」と書かれた手作りのカードを持ち、皆さん笑顔で迎えてくださり、自然と笑顔になることができた。私のホストファミリーは、スネさんで、駅にはホストファザーのジョンリックさん、3姉妹のシャーロットさん、アポリヌさん、ガロンズさんが迎えに来てくださった。スネさんはヴーヴレイというトゥール市の中心部からは車で十数分程離れた町に住んでいる。小田さんのホストファミリー、トネーさんも同じ町に住んでいて、スネさんの家から歩いて行ける距離だ。

ジョンリックさんの車で家まで行くと、ホストマザーのリンダさんが待ってくれていた。家を案内してもらおうと、家の敷地内の洞窟に連れていかれた。ヴーヴレイという町は白ワインの産地である。丘の上はすべてぶどう畑で、切り立った崖のようなところに洞窟が掘られ、そこでワインを作っていた。スネさん一家の洞窟も、その名残なのだ。中を拝見させてもらおうと、ワインを作っていた樽などの名残があり、1964年のワインなどいろんなワインがごろごろ転がっていた。



スネさんの家の中の洞窟

家の中を紹介してもらった後、扇子、手ぬぐい、お菓子など日本から持ってきたお土産を渡した。「日本のことをあまり知らない」と言っていたので、持ってきた扇子や和三盆にとっても興味を抱いて頂けた。

また、長女のシャーロットさんは2年程日本語を勉強していて、日本に興味があるようだ。日本語のこと、日本の漫画やアニメの話で話が盛り上がった。夕食はトネーさんのお家でご馳走になった。ワインを飲みながら、美味しい料理を頂き、初日から満たされた気分になった。



ヴーヴレイの丘に広がるブドウ畑

9月7日(月)

旅の疲れもあってか、なかなか起きられなかった。起きるとホストファミリーが仕事や学校に出発する時間で、寝ぼけまなこで見送った。荷物の片づけや身支度をしていると、あっという間に10時半になっていた。小田さんと、小田さんのホストファミリーの長女のカミーユさんがやってきた。カミーユさんの留学の話、私がこのプログラムに参加した理由、日本のことについて話していると、市役所のイザベルさんが迎えに来てくださり、私達はトゥール市役所へ向かった。市役所につくと、国際交流課の方々が歓迎してくださり、私たちは少しワインを飲みながら食事前の会話を楽しんだ。

市役所の食堂で昼食をとった後、トゥール市街地にあるトゥール美術館へと向かった。そこで働いているヴィルジニーさんに案内をして頂いた。元々ここは司祭館で、トゥールの古い歴史を感じられる場所である。例えば、千年程昔にトゥールを囲んでいた城壁の一部が、美術館の地下に残っている。また、展示物の中にも、ギリシャから持ってきた千年以上前の彫刻などもある。中でも私達にとって印象的だったのは、漆でできた棚だ。実はこれは17～18世紀頃に作られ、日本の漆が塗られた棚に、フランス様式の装飾、中国の物語を元にした絵を描いたものなのだ。パーツごとに見ていると、その国らしさが出ていて素晴らしい。

館内を案内して頂き、ヴィルジニーさんと別れた後は、美術館の隣のサン・ガシアン大聖堂、ロワール川、トラムという路面電車の走るナショナル通りをずっと歩いて行った。高松とは違って、古い建物が並ぶ町並みに、私達はただただ「すごい」と連発するしかなかった。そして、最後にトゥーレーヌ語学学校へ向かった。トゥーレーヌ語学学校は、トゥールの町中にあり、公園に面していて、落ち着いた雰囲気のある学校だった。ここも古い建物だそうで、教室によっては暖炉、シャンデリアが使われているそうだ。日本人も何人かいるそうで、「フランス語を学びたいときは、いつでもおいで」

と歓迎してくださった。トゥールで初めての日で緊張もしていたが、出会った人々に優しく温かく歓迎してもらい、嬉しい一日だった。



ナショナル通りのトラム



サン・ガシアン大聖堂

9月8日(火)

今日はブロワの町で一日を過ごした。ブロワはヴーヴレイから車で1時間程離れた町だ。ブロワは丘のようなところで、高低差が激しく、登ったり下りたりを繰り返していた。まず、私達はブロワ技術短期大学へ向かった。ブロワ技術短期大学では、クリスティーヌ教授に案内して頂いた。彼女はアメリカのマンハッタンに住んでいたようで、流暢な英語で私たちに説明して下さった。ブロワ技術短期大学から、小田さんの所属する香川高専と交流をしたいという話があり、高専の学生が来ることも視野に入れ、施設を見学させて頂いた。施設見学中は、工学系の専門用語がたくさん出てきて私は混乱していたが、小田さんに助けてもらいながら何とか理解することができた。研究のことは専門的で分からないこともあったが、ブロワ技術短期大学では「実験は一斉にやらず、グループごとに独立して行って、学生の独立を促す」ということを聞き、小田さんと「日本はどちらかという助け合いながら実験するから、違いがあるね」と話した。

昼食は、ブロワ城の近くにあるレストランに行った。フランスで入る初めてのレストラン。覚悟はしていたが、メニューに何が書いてあるのか分からない。仕方ないので、セットメニューを頼むことにしたが、とても美味しく、私達はおしゃべりも忘れて食事を楽しんでいた。クリスティーヌ教授は「食べている時の沈黙はいいことよ。皆が食事を楽しんでいるということだから。」と言って、とても楽しい食事になった。

その後は、ブロワ城へと向かった。ブロワ城にはルイ12世、フランソワ1世など、歴代のフランス国王が住んでいた。青字に金色の花は、フランス王室の印で、それらの印を至る所で見つけることができた。また、特別展示では1世紀に作られた本を見ることができた。まだ活版印刷技術の無かった頃なので、すべて手書きだ。どの字も小さく、絵も豪華で長い年月をかけた貴重なものだった。

ブロワ技術短期大学は二つキャンパスがあり、ブロワ城見学の後はもう一つのキャンパスへと歩いていった。そこでは、クリスティーヌ教授の学生達と交流をした。英語で「何故トゥールに来たのか」や「日本のどこから来たのか」等、話すことが出来た。実はこの日、私達のプレゼンテーションをする予定だったのだが、時間の都合上出来なかった。そこで、小田さんがこの学生達を相手にプレゼンテーションをしたいと提案し、急きよすることになった。残念ながら、私の分は時間がなく、自分のプレゼンテーションをすることが出来なかった。しかし、小田さんのプレゼンテーションを聞きなが

ら、学生達が一生懸命彼女の話の聞こうとしている姿にとっても有難く、嬉しいと思った。

帰り道にブロワ城にもう一度寄り、帰路についた。家に帰って、長女のシャーロットさんと話していると、次女のアポリーヌさんがやってきた。彼女は日本で言う中学2年生で、英語を習い始めて間もない。私もフランス語でコミュニケーションをとるのはまだまだ難しい。それに加え、お互い若干人見知りなこともあり、彼女とはまだ上手く話せていなかったのだ。しかし、彼女はGoogle 翻訳にフランス語を打ち込んで私に見せてくれた。そこには「私はあなたが素敵だと思う」と書かれていた。それを見せてもらったとき、本当に嬉しかった。それをきっかけに、彼女としばらくお話しすることができた。「Snapchat」というフランスの女の子に人気のアプリケーションを教えてもらい、お互いの写真を撮ったり、ムービーを撮って楽しんだ。初日より確実に彼女達との距離が近づいてきていることを実感し、幸せだ。



ブロワ城



小田さんとブロワ大学の学生さん

9月9日(水)

午前中は職人徒弟制度博物館を見学に行った。職人達が自らの技術を試すために、様々な作品を作り、展示してある。その一つ一つが細かく、精密に作られている。例えば、木で出来た靴の模型は1m以上あり、装飾も凝っている。更に驚いたのは、その模型、模型の上の鎖などの飾りすべて1本の木から作られているということだ。また、職人は伝統的に男性しかいなかったのだが、近年初めて女性が職人として認められたそうだ。このようにある種の改革をしながらも、伝統的な技術を残しているという姿勢が素晴らしいと感じた。

午後からは市役所のイザベルさんが仕事のため、同じ国際交流課のコリンヌさんと一緒にサン・シール・シュール・ロワール市にむかった。サン・シール・シュール・ロワール市はトゥールから車で30分くらいのロワール川を挟んで北側にある。まず、私達は市庁舎にお伺いし、同市の日仏協会のクレオラ美紀さんとお会いした。日仏協会とは、2年程前まで開校していた甲南学園の後を引き継いで設立された団体である。甲南学園は、フランスに在住していて、両親、もしくはそのいずれかが日本人である子供のための学校だったそうだ。数年前に閉校した後は、元教員だった美紀さん達が日仏協会を立ち上げ、活動されている。

次に、私達は、トゥーレーヌ語学学校に向かった。今日は水曜日で、トゥールでは多くの学校が早めに授業を終える。空いた校舎で、在仏の日本にルーツを持つ子供達に、日本語の指導を行っていた。日本語指導の他にも、お正月会や運動会も行っているそうだ。校長先生にお話しを伺うと、「子供達はフランスに住んでいるが、何か彼らの中に日本・日本語が残れば」とおっしゃっていたのが印象的だった。

私は香川大学で外国人向け日本語教育を勉強しており、日本語教育については大変関心がある。今までは日本に居るという視点で日本語教育を見てきた私にとって、外国での日本語教育を見ることが出来たのは、大変貴重な体験だった。

その後は、甲南高校の跡地にできた教室へとお伺いした。そこでは、「切り絵」というクラフト教室が行われている。その繊細な絵に、大変私達は感動した。その中で、1人の女性が私達に、切り絵で出来たルーブル美術館のモニュメントを下さった。本当に細かくて美しく、私達はひたすら「とてもきれいです」と言って、この感動を伝えたくて必死だった。日本から遠く離れた地で、日本文化を何とか残そうというクレオラ美紀さん達の姿勢に、深く感銘を受けた。帰りの車の中では、私達もトゥール市で何が出来るかを改めて考える時間になった。

家に帰ってからは、次女のアポリーヌさんがチョコレートマフィンを作っていたので、私も少しだけ手伝ってもらった。メレンゲを「雪みたいだね」と言ったり、会話が弾んだ。また、シャーロットさんは、駒がとても得意で、庭で見せてもらった。そして、夕食は、フランスのお米を用意してくださり、ホストファーザーのジョンリックさんが中国で買ってきたお箸を使って食べるようになった。フランスのお米は日本のものよりパサパサしていて、お箸ではとても食べにくい。「お箸を使うのは難しいよ」、「いつもお箸を使って食べるの?」、などと会話しながら、楽しい食事の時間が過ぎていった。



日仏協会の切り絵教室



アポリーヌさんが焼いてくれたお菓子

9月10日(木)

午前中は、私のホストシスター達や小田さんのホストシスター、3女のセリアさんの通うマルムティエ高校へむかった。まず初めに、高校3年生のクラスで、お茶を披露した。生徒の殆どは日本に行ってお茶を体験したそう。小田さんの点てたお茶を、生徒達は作法にしたがって飲んでた。少し苦かったようだが、楽しい時間を過ごしてもらえたようで良かった。このクラスにはセリアさんもいて、小田さんの恰好い姿を見られて楽しそうだった。

その次は、中学2年生のクラスに行った。そこには、アポリーヌさんが所属している。彼女と目を合わせて笑うと、少し緊張が解けた。授業の初めに、私達は簡単な自己紹介を行った。拙いフランス語を聞き取り、相槌を打ってくれて嬉しかった。生徒からの質問に、「日本のお祭りはどんなのか」と聞かれ、私達が用意してきた写真を見せると皆が興味深そうに見てくれた。その後は、2グループに分かれて鶴の折り紙を折ることにした。和柄の折り紙を見せると子供達はとてもきらきらした表情を見せてくれた。折り方をフランス語で教えるのはとても難しかった。何とか見せながら「このように」と言うと、自分で一生懸命やろうとする姿が見られた。完成すると、生徒達は自分の鶴を見ながら笑

顔になっていた。なかなか難しかったが、一緒にやってよかったと心から感じた。

お昼にはおしゃれなティーサロンで、美味しいパイとイチゴのケーキを頂いた。トネーさん宅の長女のカミーユさんが「ここはとても人気のお店だよ」と教えてくださった。確かに、料理もお茶も素敵でとても美味しい。そして、日の出協会という日仏交流団体の麗子さん達とお会いした。私達は土曜日に日の出協会のイベントに参加することになっていて、簡単な打ち合わせを行った。その後、麗子さん達と町を歩いてみたり、買い物をして楽しんだ。夕方、ガングットという河原にあるレストランに行った。色んな人がお酒を飲み、話をしながら夕方を楽しんでいた。私達も日の出協会のメンバーと顔を合わせた。トゥールに留学に来ている日本人の方や、日本語を学んでいるトゥールの方とお話ししていると、あっという間に時間が過ぎた。

家に帰り夕食をとっていると、今日のマルムティエ高校の講座の話になった。ホストマザーのリンダさんが「アポリヌは学期が始まる前は日本語の勉強をしたくないって言っていたけど、急に心変わりして日本語のクラスに変えたのよ。」と教えてくれた。今日の折り紙も楽しかったようで、長女のシャーロットさんや3女のガロンスさんに折った鶴を見せていた。ガロンスさんも折り紙に興味があるようなので、時間のあるときに皆で折り紙をしようと思う。

明日は、往復 40km のサイクリングの日だ。体力には自信が無いが、たくさん楽しみたい。



マルムティエ高校にてお茶の披露



ロワール川のほとりにて

9月11日(金)

この日はトゥールから約 20km 離れたヴィランドリー城まで、サイクリングする日だ。去年の研修生の方から、「とても大変だった」というお話を聞いていたので、覚悟して自転車を漕ぎ始めた。市役所のイザベルさんと3人でいざヴィランドリー城へ。市役所から少し離れると「ラ・ヴェロ・ド・ロワール」というマークが見えた。このマークのついた道は自転車のためにきれいに整備されていて、とても走りやすい。一度道を間違え引き返したものの、トゥールの自然の中で気持ちよく走っていた。すると、間違えた道ですれ違った男性が声をかけてきた。どうやら彼もヴィランドリー城へ行くようで、私達は彼と一緒に走ることにした。彼はイヴさんという方で、退職後各地を旅しているようだ。イザベルさんが「偶然の巡りあわせだね」と言っていたが、本当にそうだと思う。イヴさんはとても愉快な方だ。彼と英語でのコミュニケーションは難しいが、そんなこと気にならなかった。行動や態度で彼の人となりがよく分かったからだ。イヴさんを交えた私達は、唯一心配だった天気も問題なく、ヴィランドリー城へ到着することができた。

ヴィランドリー城のレストランで食事をとった後、城の見学へ向かった。ヴィランドリー城は16世紀に当時の財務大臣が建てた城である。中には、食堂や子供部屋があり、他の城より生活感が感じ

られた。そして、ヴィランドリー城で一番有名なのは、庭園だ。花、野菜、及びラベンダーなどの香料系の植物が、それぞれ幾何学模様植えられている。庭を歩いていると、偶然、結婚式を終えたカップルが写真撮影をしに来ていた。庭の景色と合わさって、とても綺麗だった。帰り道は、少し疲れてはいたが、イヴさんがくれた桃を食べたり、イザベルさんとお互いの町の話をしたりしながら、気持ちよく自転車を漕ぐことができた。

家に帰ってから、小田さんとトネーさん達がやって来て、一緒に夕食をとった。リンダさん、ジョンリックさん夫妻が用意した食事はとても素敵だった。ハム、チーズ、ワインやスネー家お手製のジュースで食事を楽しみながら、次女のアポリーヌさん、3女のガロンズさん、トネーさんの3女のセリアさんと折り紙をした。私がガロンズさんと一緒にハートの折り紙を作ると、「I love you」と書いて私にプレゼントしてくれた。アポリーヌさんとガロンズさんとは、フランス語でコミュニケーションをとらなければならないので、私にとっては大変な日々だった。しかし、段々フランス語にも慣れてきて、2人とコミュニケーションをとれるのが本当に嬉しい。研修も折り返しに入った。残りの限られた時間を存分に楽しんでいきたい。



ヴィランドリー城の幾何学模様の庭



みんなで折り紙

9月12日(土)

この日はホストファミリーとロワール川でボートに乗ることにしていたが、生憎の雨。私達は、ヴァーヴレイにあるワインの洞窟へと行くことにした。ホストファミリーの家や近所のお家にも似たような洞窟があるが、ここの洞窟はとても大きいものだった。私達はヴァーヴレイの特産品の白ワインの製造過程の展示を見学した。見学の後はワインの試飲をして、十分楽しんだ。

家に帰ると、ジョンリックさんの作った昼食ができていた。大きな鶏肉をオーブンで焼いたもの、カレー味に味付けした卵焼き、鶏肉と一緒に焼いた野菜など、盛りだくさんだ。パンにはチーズを乗せて食べた。食後はリンダさんが買ってくれたマカロンを皆で食べた。どれも美味しくて、たくさん食べてしまった。

午後からは日の出協会のイベントに参加した。そこではお茶、折り紙、習字、日本のゲームなどが楽しめた。そこで、トゥールに語学留学に来ている学生さんに会ったのだが、彼らがとても流暢にフランス語を話していて感銘を受けた。私もあんな風に話せたらな、と考えると、日本に帰ったら語学を頑張らなければと心に誓った。帰り道は、ヴァーヴレイの近くにあるガンゲットに寄り道した。ガンゲットは2、30年前に盛んだったそうで、最近それを復興しようという動きがあるそうだ。私達の行ったガンゲットも、椅子がたくさんあり、夜になると人でいっぱいになり、盛り上がりを見せるようだ。

きれいな川のほとりで、歌やダンスを聞きながら家族や友達と時間を過ごすのは、高松ではあまり

ないチャンスだ。素敵な時間を過ごし、家に帰ると、子供達が自分の書いた習字や折り紙を見せてくれた。こういう場は日本の文化に触れ、日本に興味を持ってもらう良い機会になると思う。そのような場のお手伝いをさせて頂けたことは非常にありがたい経験だった。



ヴーヴレイのガンゲット(レストラン)
にてホストマザーのリンダさんと



ホストファミリーの長女のシャーロット
さんと次女のアポリーヌさんと

9月13日(日)

昨日はいつの間にか寝てしまっていて、気が付くと9時半。大慌てで支度をしたが、ホストファザーのジョンリックさんは笑って「休日だから大丈夫だよ」とおしゃってくれた。朝食の後は、家族でアンボワーズ城へ向かった。アンボワーズ城下では市場が毎週末開かれている。私達が行ったこの日も、たくさんの人で賑わっていた。出店もチーズ、新鮮な野菜や果物、お肉(しかも鶏の頭付き)など種類が豊富だ。着くやいなや、アポリーヌさん、ガロンスさんが走って行ったのは、生きた鶏を売っているお店。ここでは、5羽の鶏を買った。リンダさんは、「先週も3羽鶏を買ったのに」と笑っていた。

アポリーヌさん、ガロンスさんは本当に動物の世話をするのが好きらしく、ずっと箱の中の鶏たちに声をかけていた。市場の後は、アンボワーズ城内へ向かった。一角にある礼拝堂の中には、レオナルド・ダ・ヴィンチのお墓がある。この城は別荘のようなものらしく、この城に訪れる王様達は、短い期間だけこの城で過ごしていた。そのため、アンボワーズ城から普段生活している城への移動がスムーズに行くように、椅子などの家具に収納機能を一杯つけて移動が簡単に出来るようになっている。また、ここの城の壁の石は、ヴーヴレイの洞窟から持って来られたそう。今日までで、3つの城を見てきたが、それぞれに特徴があって面白い。

夕方になって、小田さん、トネーさん達とレーザーゲームに出かけた。トネー宅の3女のセリアさん、私のホストシスター達、小田さん、私がゲームに参加した。このゲームでは、2チームに分かれて、相手チームの的を撃つゲームなのだが、これがとても体力がいる。ホストシスター達はこれが大好きで縦横無尽に走り回る一方、年長者だった私はへばってしまった。帰りの車では、ホストファザーのジョンリックさんが時々レーザーゲームをしに来ることを知り、自分の体力の無さを嘆いた。そして、今日はジョンリックさんが来週から出張のため、夜に家を出なければならない。帰ってくるのは来週末で、私とは最後の日だった。朗らかで、料理がとても上手で、よく冗談を言って笑わせてくれたジョンリックさん。彼との別れは本当に辛かったが、感謝の気持ちで一杯だ。出発する前に、皆で写真をとり、「本当にありがとう」と伝えた。



レオナルド・ダ・ビンチの墓



大好きなホストファミリーのスネさん一家

9月14日(月)

朝市役所のイザベルさんと合流すると、彼女の娘のフローホンスさんが書いてくれた絵を持ってきてくれた。フローホンスさんが土曜日に行った漫画の絵と一緒に、「ふみちゃんへ フローホンスより」と日本語で書かれていた。土曜日の日の出協会で会った時は静かだったフローホンスさんが、私達と会えてとても喜んでくれていたと聞き、私達の方が幸せな気持ちになった。その後は、高松市が寄付した桜を見に、サント・ラドゴンド公園に行った。それはロワール川の傍の景色の良い場所に植えられていた。春にはここでお花見のイベントが開催されているそうだ。日本のイベントがトゥールでも受け入れられていると聞いて、光栄に感じた。他にも、新しく植えられた木を見てみると、どうやら桜のようだった。今度トゥールに来るときは春に来て、ここの桜を眺めたい。

午後からは、コンセルバトワールという音楽学校へ向かった。ここは、音楽を極めるためにたくさんの方が集まっている学校である。ここで、小田さんがサクソフォンの先生と一緒に演奏をすることになった。ムソルグスキーの「展覧会の絵」の「プロムナード」など、サクソフォン三重奏のきれいな音楽を聞かせてもらった。

日の出協会の麗子さんに買い物に連れて行って頂いた後、市役所に戻って我々研修生受入のレセプションに参加した。レセプションは、国際交流課がある建物とは違う、パーティー用の建物にある「結婚の間」という所で行われた。フランスでは市役所で結婚式を挙げることができ、この部屋も週末にはよく使われているそうだ。ここで、去年の研修生のコーディネーターをしていた伴さんとお会いした。私達は高松市の大西市長からトゥール市のババリ市長への手紙を預かってきており、私と伴さんが代読させてもらい、代理のジェローム議員に手紙と記念品をお渡しした。緊張したが、しっかり務めを果たすことが出来た。

その後、私と小田さんは新郎新婦が座る席に通された。さすが「結婚の間」だ。「もう少しでトゥールを離れてしまいますが、残りの時間を楽しんでください」と声を掛けて頂き、残りの時間の短さを改めて感じた。レセプションには両ホストファミリーの他に、日仏協会のクレオラ美紀さん他、プロワ技術短期大学のクリスティヌ教授、日の出協会の麗子さん、マルムティエ高校の保井先生ご夫婦が来て下さった。保井先生のご主人とは初めてお会いしたが、とても気さくな方で話が弾んだ。それぞれの方々と思い出があり、トゥールを離れる前にもう一度お会いすることができて、とても有難かった。

家に帰る車の中では、私のホストマザーであるリンダさんと2人だけでお話しをした。よく考えて

みると、今までリンダさんと2人きりでゆっくり話したことがなかった。リンダさんのお仕事の話、家族の話、子どもたちについて、話しているとあっという間に家まで到着した。晩ご飯は市役所の近くの「SUSHI SHOP」で買ったお寿司を食べた。巻きずしに、サーモンとチーズが入っていたりと不思議な点はあったが、皆で楽しく食べる事ができた。

夕食後はリンダさんのお仕事の話の続きを聞いた。彼女はトゥール市役所の道路課に所属している。そして2013年にはトラム（路面電車）の開通に携わっていたそうで、当時の設計図、線路の基礎部分、リンダさんが取材を受けた雑誌の記事を見せて頂いた。仕事の話を話す彼女の顔は本当にきらきらしていて、かっこいいと感じた。私もいつかリンダさんのように、自分の仕事を誇らしく語れるようになりたい。

明日はトゥール最終日。残された時間を、大切な人たちとしっかり楽しみたい。



高松市の奇贈した桜



レセプションで国際交流課のイザベルさんと一緒に

9月15日（火）

午前中はトゥール市オペラ座へ見学に行った。天井にはシャンデリアが吊るされ、壁にも装飾が施されている。ステージにも上がらせてもらったが、とても広く、こんな劇場で演奏できたら気持ちいいだろうと感じた。また、日の出協会の麗子さんが頼んでくださり、衣裳部屋も見学させて頂いた。膨大な衣装に公演の名札が吊るされている。この衣裳をたった2人程で管理しているそうだ。これだけの衣裳を直していくのは、不器用な私には絶対無理だ。お昼は、国際交流課の皆さん、リンダさんと市役所の食堂で食事をとった。和気藹々と食事をした後、偶然トゥール市長のババリさんとお会いした。本当に突然のことで、驚いて上手く喋れなかったが、最後に市長さんにお会いすることが出来て良かった。

午後からは、ディドロ小学校で、折り紙教室を行った。マルムティエ高校のときのように、子供達は無邪気に質問をしてくる。私達はおもくしゃになりながらも、なんとか授業を終えることができた。授業の後で名刺を渡したり、写真を撮っていると、子供達が笑顔で挨拶をしてくれた。担当の先生にも、「ありがとう」と言って頂けた。最後にたくさんの人の笑顔を見ることが出来てよかった。市役所へ帰る道では、「終わったね」と言って、皆で笑った。達成感と共に、このメンバーで出かけるのもこれで最後か、と思うと悲しくなった。この10日間、たくさんのところへ行って、たくさんの人に出会った。それも、市役所のイザベルさん、トネーさん宅の長女のカミーユさんがいてくれたから、成功した。本当にこの2人には感謝が尽きない。

市役所でホストマザーのリンダさんと合流した。「夕食は何が食べたい？」と聞かれ、私が「エスカルゴを食べてみたい」と言ったので、探しに行くことになった。エスカルゴはクリスマスなど特別な時に食べるらしく、なかなか見つけれない。3、4軒程回ってやっとの思いで見つけ、帰路について。家に帰ると、スネさん家族と最後の夕食。リンダさん、長女のシャーロットさんはエスカルゴが好きで食べていたが、次女のアポリーヌさんと3女のガロンスさんは嫌いだそう。私が「日本の貝みたいで、美味しい」と言うと、信じられないといった顔をしていた。

そして夕食後、家族からサプライズでプレゼントを頂いた。ヴーヴレイの歴史の本と、日曜日と一緒にいったワインの洞窟のランチバック。本には、昔のこの家も写っていて、日本に帰ってもここを思い出すことが出来そう。そして、本には皆からのメッセージを書いてくれた。見てみると、日本語とフランス語で「大好き」と書いてあった。スネさん一家には本当にお世話になった。ジョンリックさん、リンダさんはいつも優しく接してくれた。シャーロットさん、アポリーヌさん、ガロンスさんとは、楽しく遊び、話をする事ができた。明日のお別れが辛い。最後に私もホストファミリー一人一人に手紙を書いた。最後の日はしっかり感謝の気持ちを伝えたい。



ディドロ小学校の後に
イザベルさん、カミーユさんと



スネさん宅のホストシスター達と一緒に

9月16日(水)

ついに最後の朝が来た。私達は10時のTGVに乗るのだが、長女のシャーロットさん、次女のアポリーヌさんは学校のため、駅まで見送りに来ることが出来ない。最後に「bise」(フランスの挨拶)をし、「Au revoir. (さようなら)」と言って2人を見送った。最後の荷造りを終えると、ホストマザーのリンダさんとコーヒーを飲みながら、お話しをした。こんな時間も最後だと思えば悲しくなったが、必ずここに帰ろうと心に決めて家を出た。

サン・ピエール・デ・コール駅に到着すると、小田さんのホストファミリーのクリスティーナさん、カミーユさん、市役所のイザベルさん、日の出協会の麗子さんが見送りに来て下さった。TGVが到着して乗り込むときは、本当にツールを離れるのが辛かった。皆が見えなくなるまで手を振った。しばらく放心していたが、小田さんとツールでの思い出を話し、必ずツールに帰ろうと決意していると次第に元気になってきた。

あっという間にモンパルナス駅に到着した。まずホテルに荷物を置きに行こうとしたのだが、どこに行けばいいのか検討がつかない。しかも雨が降っている。私達は重たい荷物を引きずりながら、とりあえず出口と書かれている方へ向かった。うろうろしていると、それらしい階段に到着した。周りにエスカレーターが見つから無いので、荷物を持ったままその階段を下りることにした。これがか

なりの重労働。どうしたものかと思っていると、男性の方が通りかかった。「どこまでいくの？」と私達に声をかけると、一番下まで荷物を持っておりて下さった。他にも、女性の方が「手伝おうか？」と声をかけてくれた。最初は「これがスリか」と警戒したが、男性は荷物を降ろして、「もう大丈夫？」と聞くと、すたすたと立ち去ってしまった。数分の出来事だったが、本当に助かった。優しい人に巡り合えてよかった。

その後は、何とかホテルまで辿り着くことができた。チェックインまで時間があつたので荷物を預けてモンパルナス駅前を散策した。モンパルナス駅、モンパルナスタワー、おしゃれなお店などがずらりと並んでいる。モンパルナス駅はパリに来る人がよく利用する駅で、どこことなく洗練された印象を受けた。チェックインの後、色々歩いてへとへとになったので、私と小田さんはしばらく休憩をとることにした。

夕方になって、高松市役所から自治体国際化協会パリ事務局に派遣されている細川さんとお会いした。私達の泊まっているホテルの近くには、ガレットというそば粉のクレープが有名なレストランがたくさん集まっているようで、その中でもたくさんの人が入っているお店で夕食をとった。ここは有名店だそうで、メニューには日本語表記もあり、フランスに来て初めて自分が注文したいものの詳細が分かった。

細川さんとはツールでの思い出、高松市とツール市の関係、細川さんのお仕事についてお話を聞いた。ホテルに戻り、帰りの空港までのバスの手配などを細川さんに手伝って頂いた。最後には「パリでの1日を楽しんでください」と声をかけてくださり、何から何まで本当に有り難い。細川さんと別れた後、小田さんとモンパルナスタワーの展望台まで出かけた。このモンパルナスタワーはオフィスビルなのだが、53階は展望台で、パリの街が一望できる。到着すると、エッフェル塔、凱旋門など、パリの夜景が目の前に広がった。また、屋上に出ると、より鮮明に夜景を楽しむことができる。この日はホストファミリーとのお別れがあり、どこことなく元気が無かったが、この素晴らしい夜景を見て、明るい気持ちになることができた。



夕食のガレット



パリのすばらしい夜景

9月17日(木)

この日はパリの町を観光することに。まずはモンパルナス駅でメトロ（地下鉄）に乗り、エッフェル塔へ向かった。ここで少し事件が起こった。「この用紙に署名して下さい」と言われ、書くと「お金をください」と言われてしまったのだ。「パリはスリが多い」と聞いて警戒していたが、これは全然考えていなかった。警戒が足りなかった。結局お金を少し取られてしまったが、これもいい勉強になった。気を取り直し、凱旋門、ルーブル美術館へ向かった。

ルーブル美術館はとても広いと聞いていたが、外から建物を眺めるだけでもその大きさに圧倒され

た。さらに中に入ると、人も多いが、それ以上に、膨大な数の美術作品が展示されていることに驚いた。有名な作品は、「ミロのヴィーナス」や「モナリザ」があるが、その中でも1枚の絵が私の印象に残った。それは、トゥール美術館で見た絵の一部だ。アンドレア・マンテグナという画家が15～16世紀に描いたもので、3枚でキリストの死から復活までを表現している。その内、キリストの復活の予言、キリストの復活を表した2枚はトゥール美術館に展示されている。ここにあるのは、キリストの死の絵だ。トゥール美術館のヴィルジニーさんから、「もしルーブル美術館に行くなら、この絵の続きの1枚を探してみてね」と言われていたので、膨大な作品の中から発見出来て良かった。

この他にも、「ハムラビ法典」などオリエントの作品も展示されていた。ゆっくり見ることは出来なかったものの、かなり多くの作品を見ることが出来た。その後は、フランス革命の発端となった「バステューユ襲撃事件」の跡地であるバステューユ広場、小説や映画のモデルになったノートルダム大聖堂に行った。ノートルダム大聖堂はとて大きく、大きなステンドグラスも飾られている。また、ここは観光スポットであると同時に教会でもあり、椅子に腰かけて集中してお祈りする人も見かけた。このようなきれいな場所は、物思いにふけるにはとても素敵な場所だと思う。夕食は、昨日細川さんと一緒に食事したお店にもう一度行くことにした。フランスで最後の夕食は、思い出話をしながら楽しんだ。明日の朝には出発のため、荷物を整理しなければいけない。ホテルに帰り、小田さんと別れた後は荷造りに追われた。



ノートルダム大聖堂



トゥール美術館の絵の続き

9月18日(金)

7時ごろに予約していた空港リムジンバスに乗って、空港に向かった。他のホテルの方も乗り合わせていたのだが、1家族がそわそわしている。どうやら飛行機の時間がぎりぎり、遅れそうらしい。「もっと早く着けないの」と運転手に苛立ちながら話しかけ、車内は一触即発の雰囲気だった。気まずい雰囲気の中、ようやくバスを降りて、エールフランスのカウンターで荷物を預けた。出発までは時間があり、私達は最後の買い物をして楽しみ、飛行機へ乗り込んだ。機内では、楽しかった思い出を振り返っていて、行きの飛行機よりあっという間に時間が過ぎていった。

9月19日(土)

朝の6時頃に羽田空港に到着した。フランスはずっと晩秋ぐらいの寒さだったが、日本は夏の暑さだ。着ていた上着を脱ぎながら、国内線ターミナルへ向かった。高松行きの飛行機に乗ると、気が抜けたのかすぐ寝てしまった。

感想文



香川大学 教育学部 3年
大坂 ふみ

トゥールで素敵な出会い

私は日本や高松について外国へ発信するというプログラムに魅力を感じ、この派遣研修に応募することにしました。また、大学で日本語教育を学んだり、留学生と関わることで、日本に住む外国の方への支援にも興味を持っています。トゥール市での国際交流の取り組みや現地の様子、人々の考えなどを身近に知る事で、将来自分がやってみたい仕事に役立てたいと考えていました。そして、トゥール市での研修は私にとって非常に良い経験で、一生忘れられない大切な宝物となりました。

まず、私の予想以上に日本に興味のある方が多いことに驚きました。異文化交流の一環として、私達研修生は、お茶の披露と折り紙教室をしました。学校で折り紙を見せると歓声があがり、講座の後にはたくさん話しかけてくれました。また、日仏の交流を進める協会の存在を知り、自分の知らないところで日本を好きになってくれる人がたくさんいることに感動しました。

また、私のトゥール市滞在の思い出は、人との出会い無しでは語れません。まず、素敵なホストファミリーのもとで、10日間ホームステイを過ごしました。日本とフランスの違いなど自分の感じたことを話すと、皆が興味を持って聞いてくれたのがとても嬉しかったです。

また、彼らも自分達のことについて私に教えて下さり、私にとっても彼らをより知ることができました。また、学校を訪問した時も多くの子供達に出会いました。私はフランス語が上手く喋れないので、内容が伝わるかどうか子供達の反応が心配でしたが、講座終了後には子供達は皆、笑顔を見せてくれました。この笑顔を見ると、「やってよかった」「幸せだ」と心の底から感じました。

この他にも、トゥール市役所で私達の面倒を見て下さった国際交流課の方々、現地で日仏交流をされている方々、私達を案内して下さいました現地の方々等、多くの人に出会い、暖かく迎え入れて頂く事が出来ました。彼らとの出会いが、この研修の中での一番の思い出です。

現在私は、卒業後に行政で働くことを目標としています。そこで異文化交流や文化発信に関わり、高松とトゥールに限らず、日本とフランスの友好のお手伝いをしたいという気持ちがより一層強まりました。今回の研修で学んだように、人との出会いを大切に、自分にできる最大限のことを貢献して参りたいと思います。最後になりましたが、このような機会を与えて下さった高松市をはじめ、お世話になったすべての皆様に、感謝致します。本当にありがとうございました。

親善研修生 報告書 Ⅱ

日誌・活動記録

香川高等専門学校 建設環境工学科4年 小田菜月

9月5日(土)

研修までまだまだ時間があると思っていたのに、気が付けばあっという間に出発の日になっていた。フランスへ行くことも、ヨーロッパへ行くことも初めてで、そのうえ今まで一度も学んだことのないフランス語でのプレゼンや、お茶や折り紙を通じての文化交流、とても緊張していた。でも緊張よりも期待のほうが大きかった。小学生のように、出発が楽しみでなかなか寝られなかったほどだ。

高松空港では高松市国際交流協会の方々に見送って頂き羽田空港へ。羽田空港ではしばらく食べることの出来ない日本食でお腹を満たして、フランス行きの飛行機に乗り込み日本を発った。

9月6日(日)

いよいよフランスへ到着した。12時間というフライトで大変ではあったが、よく眠ることができたと思う。どのような体勢でも眠ることができるタイプなので長時間のフライトではとても役に立った。到着は朝の4時だったので辺りはまだ暗かった。太陽のまだ昇っていないパリはオレンジ色の街灯で上品に輝いていた。飛行機から降りて、空港内の表示や、朝食をとるために入ったベーカリーでの注文など、目に耳に入ってくるもの全てが当然フランス語で、フランスへとうとう足を踏み入れたのだと改めて実感した。

大坂さんのおかげで無事にTGVに乗ることができ、サン・ピエール・デ・コール駅に到着するまで最初の内は景色を見たり、プレゼンテーションの練習を聞いてもらったりして過ごしたが、しばらくしてうとうとしてしまった。駅ではトゥール市役所のマリ・ベルナードさんとそれぞれのホストファミリーが出迎えてくれた。挨拶をした後は私のホストファザーのパトリスさん、ホストマザーのクリスティーナさんと一緒に家へと向かった。トネーさんの家はトゥール駅から15分ほど離れたヴーヴレイという町にあ



素敵なトネーさん一家



辺り一面のブドウ畑

る。石畳の道路の端には車が縦列駐車していて、近くのベーカリーからはパンの香りが漂う、とても素敵な場所だった。

トネーさんの家に入ると長女のカミーユさんが出迎えてくれた。カミーユさんは7月まで大阪に留学していたので、日本語が上手だった。カミーユさんがヴーヴレイを案内してくれるとのことで、自分の荷物を運びこんでから出発した。ヴーヴレイは白ワインが有名らしく、家を出て坂を登っていくとあたり一面がブドウ畑だった。延々と続くブドウ畑の中の散歩を、カミーユさんと家族の話をしながら楽し

んだ。散歩から帰ると、次は3女のセリアさんが出迎えてくれた。

次女のカルメンさんはスウェーデンへ留学しているため会えないが、家族がそろったのでお土産を渡して、高松のことや自分のこと、ホストファミリーについての会話を楽しんだ。疲れているだろうからと、少しだけ寝させてもらって夕食まではセリアさんと過ごすことに。2人ともがOne Directionというバンドのグループが好きということが分かり、ライブのDVDを一緒に見た。歌って、騒いで、跳ねて、ほぼ同い年なので友達のような感じでとても楽しかった。

夜はトネーさんの家で大坂さんのホストファミリーのスネさん一家と一緒に、ホームパーティーをした。人見知りをしてしまうので少し緊張したが、皆でホストファザーのパトリスさんの作った美味しい料理と会話を楽しんだ。ホームステイでちゃんとやっていけるか少し不安はあったが、とても親切で素敵な家族だったので不安はなくなった。明日からもとても楽しみだ。

9月7日(月)

フランスへ着いて2日目。朝食を長女のカミーユさんと食べて、大坂さんのステイ先のスネさんのお宅へ。今回、研修の主なアテンドをしてくれるトゥール市役所のイザベルさんが迎えに来て下さった。今日からはイザベルさんと、カミーユさんと行動するようだ。トゥール市役所に着き、午前中は国際交流課の方々がちよっとした歓迎会を開いて下さった。ワインやジュースで乾杯して、会話を楽しんだ。そのあと皆で市役所の食堂へ行き昼食を食べた。昨日も思ったことだが、フランスの人達は老若男女問わず会話を大切にしている。食堂はたくさんの人たちの楽しそうな会話で賑わっていた。

午後はトゥール美術館とサン・ガシアン大聖堂を見学した。美術館は市役所のヴィルジニーさんが案内してくれた。この美術館にはロワール川から見たトゥール市の風景画が沢山あった。17, 18世紀ぐらいに描かれた風景画と今の景色がほとんど変わらず保たれている。これは本当にすごいことだと思う。日本では次々と新しいビル、高層ビルが作られているが京都のような街並みをもっとたくさん残されていればと改めて思った。

トゥーレーヌ語学学校では、天井とか壁に中世の教会のような素晴らしい絵画が飾られた教室を見学させて頂いた。庭も学生や近隣の方々の憩いの場となっており穏やかで素晴らしい学校であった。このような場所で語学を学ぶことが出来るのは羨ましいと思った。

サン・ガシアン大聖堂はとても壮大で、ステンドグラスが特に素敵だった。ステンドグラスにはキリスト教の聖人であるサン・マルタンの起こした出来事が描かれてあった。貧しい人に自分のマントを切り裂いて渡してあげた、という話が一番有名らしくそれももちろん描かれていた。ミサがある時なら、大聖堂にパイプオルガンの音が響いてより厳かな空間になるだろうと想像が膨らんだ。

今日は初めてのトネー一家の家族だけの夕食。

今日どんなことがあったのかを家族で話した。3女のセリアさんは高校で日本語を学んでいるので、練習として日本語で話しかけてくれる。ホストマザーのクリスティーナさんはフランス語を教えてくれる。今日教えてくれたのは果物の名前で、「明日テストするよ」と笑顔で言っていたので復習しておこうと思う。



サン・ガシアン大聖堂

9月8日(火)

今日はトゥールのお隣のブロワへ行った。ブロワ技術短期大学が、香川高専と同様に技術系の工学を学ぶということで今後両校での交流ができれば、という話があり、訪問した。英語を教えているクリスティーヌ教授の案内で校内へ。もともとチョコレート工場だったらしい大学の校舎は、私の学校とは比べ物にならない位に広い。どこまでが敷地なのかがわからないくらいだ。校内見学ではパソコン室があったり、溶接の機械に3Dプリンターなどの専門的な機械があったり、いかにも工学系の学校という感じがした。クラブ活動の一つにアートをつくるクラブがあって、石膏や鉄を使って学生達が自由に作品を作っていた。さすがはフランス、どの作品も本当におしゃれでお店に置かれていてもちゃんとした商品としても売れそうな感じだ。

ブロワ城に移動し、場内展示の本のコレクションを見た。書かれているのはやはりキリスト教関係が多い。印刷なんてなかった時代で、もちろん全てが手書きの上に、間違えたら見開きのページを両方ともやり直すのはすごく大変なことだった。絵はとても細かく美しいし、字の量もすごい量で、本の厚さが10センチを超えるものもあった。その作業を1人で、行っていたというので、すごいとしか言いようがない。



ブロワ城から見える街並み

昼食はおしゃれなレストランでランチコースを頂いた。ズッキーニのスープから始まり、魚のフラン、チキン、ガトーショコラだった。どれも本当においしくてお昼からこんなにも贅沢なコースを食べられるなんて、まるで夜の豪華ディナーのようであった。

昼食の後は、大学へ戻り、先ほどとは別の棟へ行った。午前中に行った棟を機械系としたら、こちらはネットワーク系と言ったところだろう。見学を終えた後は、ブロワの学生との交流をした。5人の学生で、そのうち1人はマレーシアからの留学生だった。将来はエンジニアになりたいという人が多かった。ここではまだ一度もする機会がなかった、フランス語に訳した、私の高松市のプレゼンテーションを聴いてもらった。

あがり症の上、フランスへ来て初めてだったので緊張した。法然寺の写真が一番興味をもって来ていたと思う。一番日本らしさがあるからだろう。フランス語は全然話せないと言ってあったので、みんな良かったよと言ってくれた。とても優しい人たちだった。ここでのプレゼンテーショ



ブロワ技術短期大学の学生との交流

ンでの反省点もあったので、資料の手直しをしたいと思います。ブロー技術短期大学はとても広くて高台にあり見晴しも良くて勉学に最高の環境の校舎に教授、学生達が集っていて、どの学生達もみんな学校生活をとても楽しんでいるようだった。こんなすばらしい学校と香川高専が近い将来連携できたらいいなと思う。

再びブロー城へ戻り、場内を見学した。ブロー城の近くのアパートの窓からは、布で作ったブロー城のシンボルであるサラマンダー（トカゲの一種）のからくり人形が顔を出していた。毎日夕方5時にデモンストレーションで動くらしい。観光客を喜ばせる、ユニークなからくり人形だった。城内にはたくさんのコレクションがあり、歴代の王の肖像画も並んでいた。この人たちがロワール川沿いにある古城で暮らしていたことはとても羨ましい。

9月9日（水）

この日は仕事開始まで大坂さんのホストマザーであるリンダ・スネさんの案内で市役所内を一通り見学。市役所なのに中世のお城のような装飾や絵画があつて素敵な場所だった。昨日見学したブロー城にもあつたような大きく豪華な装飾を施された暖炉に、天井一面に描かれた絵。こんな場所が市役所の中にあるなんてとても驚いた。ここでは市民が結婚式を挙げることも可能なようだ。本当に羨ましい。この場所でトゥール市が我々研修生のためにレセプションパーティーを開いてくれるということなので、とても楽しみだ。

その後、国際交流課へ行き、イザベルさんとともに市のメインストリートであるナショナル通りを歩いて、職人徒弟制度博物館へ。ナショナル通りを歩くのは初めてだ。ベーカリー、カフェに洋服屋など石壁のおしゃれなお店が並ぶ大きな通りの真ん中をメタリックなトラムが通過する様子は、両極のコントラストでありながら妙に一体感のある街の雰囲気ですごく不思議だった。このトラムはデザインがとてもシンプルでスマートで、ボディは鏡のようにになっている為、街に溶け込んでいるように感じた。

職人徒弟制度博物館では鍛冶、紡績、製菓など様々な分野の職人の技術を見ることができた。コンパニオナーージュという職人育成の組織の発祥がこのトゥレーヌ地方だそうだ。私の中で一番印象的だったのは、2000以上の鉄でできた部品から作られた門のミニチュアだ。14年もかけて作られたとのこと。何という不屈の精神だと素直に思った。昨日の、全てのページを手書きで2、3年かけて完成させた本だけでも十分驚きだったのに、なんと14年もとは。想像もできない。どの作品も本当に歴史の重みを感じさせる作品だった。もともと博物館や美術館で作品を見ることは好きだったので、十分にそれらを楽しむことが出来た。

午後からは大坂さんのホストファミリーの長女のシャーロットさんも加わりサン・シール・シュール・ロワール市へ。

まずサンシール旧市庁舎を訪問した。ここで日仏協会のクレオラ美紀さんとお会いした。美紀さんはフランス語が本当に堪能で、通訳をしてくださった。

サンシール市庁舎にも、トゥール市役所のように市民が結婚式を行う「婚礼の間」があつた。シンプルな空間に主張しすぎないシャンデリアと「マリアンヌ」という女性の銅像があつた。結婚する2人はマリアンヌ像の前で誓うら



シクラメンの絨毯

しい。この部屋からはサンシール市を見渡すことができ、外の広場には絨毯のように野生のシクラメンが咲いている。サンシール旧市庁舎は自然に囲まれた穏やかな環境が維持された場所だった。

続いて日仏協会の活動を見学に行った。今日は切り紙の教室をしていた。10名ほどが机を囲み黙々と作品作りに没頭していた。切り紙は中学校の美術の授業で一度だけやったことがあるが、あれは切り紙とは言えなかったのだと思った。カードを広げると舞妓さんや、立体的なノートルダム大聖堂が飛び出してきて、紙を切っただけだなんて信じられない仕上がり。日本人なのにまだまだ知らない、馴染みのない日本文化がたくさんある。世界の文化に興味があるけれど、まずは日本文化についてもっと知る必要があると思った。



日仏協会の切り紙教室

9月10日(木)

今日の午前はマルムティエ高校、中学校を訪問。まずは私のホストファミリーの3女のセリアさんがいる高校3年生のクラスへ。道具をすべて持っていくことが出来ないで最低限の道具で簡単なものではあったが、ここでは茶道を披露した。生徒達の中には修学旅行で京都を訪れた際、一度茶道を体験したことのある人もいた。香川県の特産である和三盆とお茶でおもてなしし、和三盆はとても好評だった。抹茶はやはり苦いと感じる人が多い様子。でも興味をもってもらえたようで、「楽しかった」と言ってもらえてよかった。

次の中学2年生のクラスには大坂さんのホストファミリーの次女のアポリーヌさんが在籍していた。クラスを半分に分けて、折り紙で鶴を作った。フランス語の折り図があるとのことで、同校の保井先生が折り図をクラスに配布して下さった。しかし折り図を見ても折り紙に馴染みがないため難しいようで、私も人に教えるという経験が殆どない為に手間取ってしまったが、カミーユさんが手伝ってくれたので全員が鶴を作ることができた。生徒達が完成した鶴を嬉しそうに眺めている姿を見ることが出来てうれしかった。

午後からは、日本文化を体験できるイベントの開催などの活動をしている、日の出協会の会長である麗子さんに旧市街を案内して頂き、その後、日の出協会の方たちとガングットという、ロワール川の川岸にあるレストランで飲み物を飲みながらお話をした。フランス語や料理を学ぶために留学している日本の方と知り合った。留学の期間は様々であったが、皆、フランス語でコミュニケーションをとれていて、とても恰好よかった。初めてフランス語を聞いたときの一番の感想は「呪文みたい」であったが、私もフランス語を習って早く喋れるようになりたいと思った。

9月11日(金)

今日は、昨年の研修生から、大変だったと聞いていたヴィランドリー城までの往復およそ40キロメートルのサイクリング。運動が苦手な上、普段自転車を通学に使用するとはいえ5キロメートルほどしか走っていない。更に、去年の体験を聞き、この研修で最も心配していた事である。しかし最近日本でも人気のある、ロードバイクのレース「ツール・ド・フランス」の行われるフランスでサイクリング出来ることに興奮もしていた。「ラ・ペロ・ド・ロワール」という自転車専用整備された道なの

とても走りやすく、気候も涼しく自然の中を楽しく走った。途中、道を間違えるというハプニングもあったが、道中で知り合ったイヴさんという男性がヴィランドリー城まで案内してくれた。初対面なのにも関わらずとてもフレンドリーで陽気な明るい感じのおじさんだった。イヴさんも一緒に昼食をとり、ヴィランドリー城の中へ。



幾何学模様の素晴らしい庭園

どの部屋の窓からでも、目の前に広がるのは美しい幾何学模様の庭園。ちょうど庭師の方々が手入れをしている様子を見ることが出来たが、この広さの庭園の手入れは大変そうだったのと同時に人々を感動させることの出来るとてもやりがいのある仕事だとも思った。

ヴィランドリー城から帰っても疲れはなく、これも私たちを楽しませようとたくさん笑わせてくれたイヴさんのおかげだろう。楽しい出会いもあって、サイクリングを楽しむことが出来た。

夕食は大坂さんのホームステイ先であるスネさんの家でホームパーティーをした。大人と子供に自然と別れて、食事や会話を楽しんだ。初日のパーティーよりも皆の仲が深まっているので盛り上がった。また食事が落ち着いてからは、折り紙でトトロの折り方を皆に教えた。ジブリは誰でも知っていてすごい知名度のようで、皆に愛されている。アポリーヌさんが家の中に消えたと思ったら、トトロのパーカーを着てきてくれた。折り紙のトトロを肩に乗せて、両手に持って、「写真撮って！」と嬉しそうに言う姿はと



大人気の折り紙のトトロ

とても可愛かった。3女のガロンスさん、トネーさんの3女のセリアさん、長女のカミーユさんも皆喜んでくれたので覚えて行って良かったと思った。とても楽しい時間だった。

9月12日(土)

フランスへ着いて初めての休日。今日は朝からセリアさんとお菓子作りをした。お菓子作りと言っても私がしたのは小麦粉を量って、チョコレートと卵を割っただけだったけれど、一緒にキッチンに立つということが楽しかった。お昼ご飯は「タハタ」という伝統的な食べ物。生のパテ（ハンバーグのようなもの）に好きな調味料とピクルスなどの具材を混ぜて卵黄を混ぜて食べる。ユッケに近いといえば伝わるだろうか。デザートは先ほどセリアさんと作ったフォンダンショコラ。フランボワーズソースをかけて食べたがとても美味しかった。日本に帰ったらお菓子作りにもチャレンジしてみよう

と思う。

午後からは、先日お世話になった日の出協会のイベントにお手伝いとして参加した。私は茶道のブースのお手伝いをした。フランスの各地で茶道を披露しているという同協会の知子さんのアシスタントとして、お菓子を運んだりお茶を点てたりした。高校でお茶をした時も感じたことだけども、海外で茶道ができるなんて本当に貴重な経験をさせて頂いた。



日の出協会でのお茶会、知子さんと

茶道のブースが終わってからは、2階で行われていた日本語教室の見学をさせてもらった。同協会会長の麗子さんが約10名に教えていた。参加していたのは小学生から60代くらいの男性まで幅広い年代だった。数字や動物の名前を麗子さんが教えていて、体の部位の名前はなぜか私が教えることになった。緊張したけれど、麗子さんに助けをもらいながら何とか伝えることが出来た。参加していた人達は私にフランス語を教えてくれた。短かったけれど新しい友達も出来たので楽しかった。



家族で手作りお寿司

夕食は手作りの寿司パーティーをした。ホストファーザーのパトリスさんがサーモンとマグロの刺身を作り、カミーユさんとセリアさんと私でひたすら巻き寿司を作った。正直、今までに巻き寿司を作ったのは1度だけ。しかもその1回は去年の夏休みにホームステイしたニュージーランドでの経験。そのことを話すととても驚かれた。フランス人のセリアさんが日本人の私に巻き寿司の作り方を教えることになるなんて、と笑っていた。パトリスさんも面白そうに笑っていた。大量

の巻き寿司を作ったが、あっという間に平らげた。お米にかなり粘つきがあり、ネタは冷凍だったが自分たちで作ったので結構美味しかった。

寿司パーティーのあとはカミーユさんとセリアさんと一緒に過ごした。2人のお勧めの動画を一緒に見たりピアノを弾いたり歌ったり。初めての休日はとても充実したものになった。

9月13日(日)

今日は朝からパトリスさんがマカロンを買ってきてくれた。朝ごはんは出来立てのクロワッサンと可愛いマカロンに、クリームたっぷりのココア。いつもおいしい朝食だけれど、より一層おいしく感じた。朝食後は家族全員でナッターさんの家へ。ナッターさんはセリアさんとカミーユさんが昔ベビーシッターをしていた家であった。

ナッターさん宅は3姉弟で、長女のロリータさんは10日にマルムティエ中学校で一緒に折り紙をした子だった。ロリータさんは先日の授業のあと、家でたくさんの鶴を作って飾ってくれていた。

折り紙をととても気に入ってくれたみたいだ。たくさん折



ナッターさん一家

り紙をお土産に買っていたのでロリータさん達にもプレゼントした。ここではスペイン料理を頂いて、庭に出て皆で談笑して過ごした。

午後からは「レーザーゲーム」をするためにゲームセンターへ。大坂さん達と合流した。初めは少し恥ずかしかった頬を合わせる挨拶も、今ではもう慣れた。みんなと挨拶をした後、大人たちはカフェへ子供達はゲームへ。レーザーゲームは2チームに分かれて互いをレーザーで撃ち合うもので2回やったけれど2回ともスコアは最下位だった。難しかったけれど両ホストファミリーで遊ぶことができて良い思い出になった。提案してくれたセリアさんとシャーロットさんには感謝だ。

9月14日(月)

今日、長女のカミーユさんは同行せず、イザベルさんと大坂さんと3人での行動だった。市役所へ向かう前に、高松市が寄贈した桜のあるサント・ラドゴンド公園へ行った。気候が違うため育てることが少し難しかったようだが、ちゃんと春には花が咲いて、憩いの場になっているようだ。今年の春にはツール市の主催でお花見を行ったらしい。途中で雨が降ってきてしまったけれど、皆とても楽しめたとのこと。高松市は粋なプレゼントをしたのだなと思った。

昼食後は急遽コンセルバトワールという音楽学校に招かれて、サクスを吹く機会を頂いた。中学より始めたサクスは今でも続けている。しかし趣味なので音楽学校で吹くなんて、と向かう間は緊張で胃が痛かった。いざ学校に行くと、様々な楽器の音が響いていて更に緊張した。コンクールの時よりも緊張していたかもしれない。6畳ほどの小さな部屋で2人の先生と簡単な練習曲を吹いた。サクスには様々な種類があり、今日は一般的なアルトサクスというものだった。アルトサクスを吹くのは4年ぶり、お世辞にも上手とは言えない音だったけれど、アンサンブルは楽しかった。先生もおっしゃっていたが、音楽に国境はないので普段からアルトサクスの練習もしようと思った。

コンセルバトワールを出てから、日の出協会の麗子さん
と買い物を楽しんだ後レセプションパーティーへ向かった。今日は1日中緊張している気がするが、ホストファミリーのトネーさん一家も合流して落ち着くことができた。去年までの研修のお世話を下さった伴さんに、今回研修でお世話になったブロワ技術短期大学のクリスティーヌ教授、マルムティエ高校の保井先生、日仏協会のクレオラ美紀さん達も来てくれていた。また会うことができると知



レセプションパーティーにて

らなかつたのでとても嬉しかった。大坂さんが大西市長から預かった手紙を読み、セルジュ・ババリ市長のかわりに参加して下さったジェローム議員へお渡しした。その後ジェローム議員からお言葉をいただいた。立食パーティーで皆さんに今までのお礼をして、会話を楽しんだ。

パーティーが終わりホストマザーのクリスティーヌさんの車で家に帰り夕食の準備をした。今日はパトリスさんがチャレンジして欲しいと言っていたエスカルゴが出てきたが、抵抗は全然なかった。バジルとガーリック、オリーブオイルで Grill したもので貝のようだった。フランスでも苦手な人が多いらしく、セリアさんも目を背けていた。



人生初のエスカルゴ

9月15日(火)

午前中はトゥール市オペラ座の見学をした。日の出協会の麗子さんも同行してくれたおかげで、衣裳部屋や舞台裏まで見せて頂くことができた。衣裳部屋には演目ごとにたくさんの衣装が整理されており、自分が知っている演目のプレートを見つけては興奮していた。次はオペラをしている時期に、観に来たいと思った。

昼食までは最後のトゥールの散歩をした。ジャンヌ・ダルクが鎧を作らせた場所など、まだまだ知らない場所がたくさんあって、散歩は何度しても楽しかった。

午後からはディドロ小学校で折り紙のワークショップをした。18人のクラスで私は8人の生徒とイザベルさんと先生と一緒に鶴を折った。生徒はみんな真剣に、私が教える折り方を見ていた。先生とイザベルさんも真剣に折り紙をしていた。全員鶴を完成させることができ、集合写真を撮った。

みんな抱き着いてきて、とても可愛かったし楽しんでもらえた様子だった。別れるときは皆が頬にキスをして、嵐のように帰って行った。先生方とも写真を撮り、最後のプログラムがディドロ小学校でよかったと思った。



ディドロ小学校の皆と

最後の夜はレストランでディナーだった。ホストファザーのパトリスさんがフランスのフォアグラを食べさせてあげたい、と連れてきてくれた。席に着き、メニューを見ているとまだ頼んでいないのにプレートに大きな塊が出てきた。フォアグラの塊だった。シェフとパトリスさんが友人で、シェフからの気持ちということらしい。楽しく食事していたのだが、今までに体験したことを振り返って話していると改めて、明日で終わりなのかと思った。急に寂しくなってしまう、泣き出してしまった。長女のカミーユさんが付き添ってくれて、店の外で泣いて、出発は明日だよと少し笑われた。落ち着いてからは再び楽しく食事をした。明日の朝会えない3女のセリアさんとは夜にお別れをした。先ほど泣いたばかりなのに、手紙ももらって、また号泣した。今日でこんなに泣いてしまっ、明日はどれだけ泣くのか想像も出来なかった。

9月16日(水)

ついにトゥールを出発する日。仕事へ向かうパトリスさんは家でお別れをした。またいつでも泊まりにおいでと言ってくれた。落ち着いているのに、おちゃめな所もある素敵なお父さんだった。一人一人への手紙を渡して、ホストマザーのクリスティーナさんと長女のカミーユさんと一緒にサン・ピエール・デ・コール駅へ向かった。

駅には大坂さん達と市役所のイザベルさんがいて、後から日の出協会の麗子さんも来てくれた。イザベルさんと麗子さんにも手紙を渡したら、また泣いてしまったけれど、必ずおいでと言ってくれた。クリスティーナさんは私のことを娘だと、カミーユさんも帰っておいでと言ってくれて、本当に幸せな10日間だったと思った。号泣していて、お別れの様子の写真を撮るどころではなかった。

モンパルナス駅に無事着いたが、駅からホテルまでが大変だった。雨が降っている中で、30キロほどの荷物を持つての移動だった。階段ばかりで、一度スーツケースを落としてしまった。人が下りて

きたので邪魔にならないように避けていると、スーツを着た男性が手伝うよと言って運んでくれた。とても優しい紳士だった。TGV から荷物を降ろす時も、手伝ってくれた方がいて、フランスの人は紳士が多いなと思った。

何とかホテルについて、チェックインまで時間があったので荷物を預けて、モンパルナスの駅前に昼食を取りに行った。ホテルの近くにたくさんお店があったので、お店をみたりして時間を過ごした。

女2人なので少し怖かったので遠出はしなかった。散歩をするだけでも楽しくて、マクドナルドを見ただけでも「おしゃれすぎる」とテンションが上がっていた。つい5時間ほど前まで号泣していたのに、単純だなと思った。けれど、それほどパリも素敵な街だということだ。世界中から憧れのパリと言われるだけのことはあると実感した。

夕食は高松市から自治体国際化協会パリ事務所に派遣されている細川さんにガレットのお店に連れて行って頂いた。ブルターニュ地方の食べ物であるガレットは、そば粉で作ったクレープだ。小麦が作れないブルターニュ地方では、そば粉が小麦の代わりに使われるらしい。ブルターニュへ向かう電車がモンパルナスから出ているため、この辺りにはたくさんガレットのお店があるらしい。



ガレットの人気店

連れて行ってもらったお店はこの辺りで1番有名な人気店で、大賑わいだった。チーズとソーセージのガレットと、デザートのカレーを食べておなか一杯になった。細川さんからパリでの暮らしや、パリへ来る前のフランス語の勉強について話を聞いて楽しんだ。ホテルに帰り、細川さんが空港までのバスを予約してくださりお別れした。

ずっと降っていた雨が上がっていたので、今年の研修生のお勧めのモンパルナスタワーへ。展望台から見えるパリの夜景は本当に素晴らしかった。東京の夜景も世界的に一級の夜景であるが、パリの夜景は派手すぎない上品な雰囲気だと思う。明日回る予定のエッフェル塔に凱旋門や、オペラ座なども見えた。今から楽しみだ。

9月17日(木)

ホテルで朝食をとり、さっそくメトロへ。日本でもトゥールでも「パリではみんなが敵と思いなさい」と言われていたので、メトロでは入口付近を避けて、荷物にも注意して乗った。まずはエッフェル塔へ向かった。ここで今回の研修の一番の事件が起こった。スリに最大限の注意を払っていた。エッフェル塔へ向かう道の横断歩道で信号を待っていると、反対側にいる人と目が合った。この時からもう目をつけられていたのだろう。信号を渡ると、署名活動をしているという人たち6、7人に囲まれてしまった。大坂さんとは離されて、寄付して下さいと詰め寄せられ、20ユーロを払わされる破目に。なぜか更に20ユーロ、合計40ユーロ払わされ解放された。お金を取られるだけで済んでよかった、とポジティブに考える



ルーブル美術館

ようにした。

エッフェル塔、凱旋門の前で写真を撮った後ルーブル美術館へ。ルーブル美術館は広すぎて1日では回れないことがよく理解できた。「モナリザ」を実際に見たときは、本当に興奮した。目の前にあるなんて信じ難かった。他にも有名な「ミロのヴィーナス」や「民衆を導く自由の女神」など多くの芸術作品を鑑賞した。またフランスへ来る機会があれば3日間ぐらいかけて、じっくりと鑑賞したいと思った。

ルーブル美術館を出てからは、バスティーユ、ノートルダム大聖堂へ行った。1年生の頃はフランスの歴史をメインに学んだので、バスティーユも訪れることができてうれしい。ノートルダム大聖堂は美しく壮大だった。閉館時間が近かったので少ししか居られなかったけれど、この空間は何時間でも居られると思った。神聖な雰囲気です心を落ち着けられる。エッフェル塔で起こったことも良い勉強だと改めて思えた。

最後の夕食は結局、昨日行ったガレットのお店へ。日本語のメニューがあって、安心感もあったからだ。今日も大賑わいで、大坂さんとフランス最後の夕食を楽しんだ。

9月18日(金)

いよいよフランスを発つ日。ホテルから空港へ行き、手続きを終えて空港内で少し買い物をした。男性店員に声をかけられて怖かったけれど、空いているレジに連れて行ってくれた。昨日の件から、少し人間不信になっているみたいだ。

飛行機に無事に乗り、12時間のフライトとなった。

9月19日(土)

問題なく羽田空港へ到着。乗り換えの手続きもスムーズに終わることができた。3時間ほどゆっくりして高松へ出発した。あっという間に高松空港につき、高松市国際交流協会の方と親が出迎えてくれた。たくさんのお土産話があるので、聞いてもらいたい。2週間の研修が無事に終了して、この研修に参加させてもらえて本当によかったと改めて思った。

感想文



日本・高松の文化を伝えて

香川高等専門学校 建設環境工学科 4年

小田 菜月

トゥール市での10日間とパリでの2日間の2週間の親善研修に参加させて頂きました。テレビや本で得る情報だけでは得られないフランスと日本の違い、それぞれの良いところをたくさん感じることでできた研修であり、ファッションや音楽、美術、料理など様々な分野で世界中から注目されるフランスでの生活は、私にとって全てが新鮮で素晴らしい経験となりました。

私が学びたかったことはトゥールでの都市開発の事例でした。トゥール市のメインストリートのナショナル通り、旧市街を実際に歩いて、日本との違いを感じました。日本では都市開発のために新しい建物を次々と建設しています。一方、フランスでは昔からの建造物を壊さずに守り、新しいものを取り入れる際も、景観を損なわないようにしていました。伝統を伝えるという点では、建造物だけではなく職人の技術も同様でした。日本の新しいものを取り入れる姿勢ももちろん大切だと思います。しかし、島国である日本にある独自の文化や技術を守り、継承していくことは更に重要なことだと感じました。活動記録にも書いたように、高松市の北浜アリーなどの再開発は素晴らしいことだと改めて思いました。

文化交流の面では、小学生から大人までと様々な年代のフランスの方たちと交流させて頂き、高校生と日の出協会のイベントでは茶道の体験をして頂く事が出来ました。高専の1年生から始めた茶道ですが、自分に披露する機会が訪れるなんて思ってもいませんでした。海外の方に茶道を知ってもらえる素晴らしい機会となり、私にとっても大変貴重な経験となりました。

文化交流を通して感じたことは、日本の文化はとても美しいもので、海外にも興味を持っていてくれる方がたくさんいらっしゃるということです。私と同世代の人たちは、まだまだ知らない日本文化があります。海外に日本の文化を伝えていくためには、まずは自分自身が日本文化への知識を深めなければならないと感じました。

今回のこの2週間は文化を通して、たくさんのフランスの方と交流することができました。素敵なホストファミリー、新しい友人と出会いました。この繋がりを今後も途切れることなく継続していきたいと思います。最後になりましたが、支えて頂いた関係者の皆様のおかげで素晴らしい親善研修となりました。心より感謝申し上げます

